

請 願 文 書 表  
(令和6年第3回定例会)

|           |  |
|-----------|--|
| 請 願 第 7 号 | 令和6年8月27日受理  |
| 付 託 委 員 会 | 福祉常任委員会  |
| 件 名       | レプリコンワクチン中止の意見書の提出を求める請願   |
| 紹 介 議 員   | 若 松 博 議員   |
| 請 願 要 旨   | <p>(要旨)</p> <p>1 国に対し、世界での安全性も承認されていない自己増殖型mRNAワクチン（レプリコンワクチン）中止の意見書の提出を求める。</p> <p>2 国民へのmRNAワクチンの健康被害の周知と、mRNAワクチンによる健康被害救済の強化を求める。</p> <p>(詳細)</p> <p>新型コロナウイルスの蔓延により、令和3年2月から国内で開始した新型コロナワクチン接種は、海外で早い段階で中止されたにも関わらず、日本では接種回数が7回に及ぶまで続けられました。しかしながら、新規感染者数は減少するどころか増加し、令和3年から超過死亡者数も急激に増え続けている現状です。</p> <p>令和6年10月から新型コロナウイルス感染症の予防接種が定期接種となり、使用されるワクチンは、組み換えタンパクワクチン（不活化ワクチンの一種）、mRNAワクチン、自己増殖型mRNAワクチン（レプリコンワクチン）の中から選択される予定です。この中で、mRNAワクチンに関しては令和3年にワクチン接種開始してから、副反応疑い報告数や予防接種救済制度の認定件数が過去に類をみない現状となっています。そのmRNAワクチンの更なる新技術を使用した自己増殖型mRNAワクチン（レプリコンワクチン）においては、体内でスパイクタンパク質を生成する設計図となるmRNAが人の体内で増殖し、少量の薬剤で高い中和抗体価が得られるというものです。実際、製薬企業の試験では、マウスにおいて初回接種として接種した場合、従来のワクチンに比べ、中和抗体価が約4.7倍高い結果も出ています。</p> <p>しかし、中和抗体価が高いということは、ワクチンによる免疫異常等の健康被害の可能性も高くなるということです。また、mRNAが自己増殖することにより、細胞内の物質が過多となり、細胞から細胞へと情報伝達をする役割を</p> |

請 願 文 書 表  
(令和6年第3回定例会)

行っている、直径30～150nm程度の小胞であるエクソソームによって、唾液や血液、汗、尿を介し、mRNAやスパイクタンパク質等が体外へ排出され、ヒトからヒトへ伝播する可能性が否定できないという見方もでています。

新型コロナウイルスはRNAウイルスであり、ウイルスの変異が早いため、ワクチンで選択するウイルス株も実際のウイルスの変異に追いついていないのが現状です。新型コロナウイルス感染症対策として使用されているmRNAワクチンでさえ安全性に対する懸念が拭えない中、さらに新技術の自己増殖型というワクチンに対し、免疫系への中長期的な影響や、将来的な健康リスクについての科学的データが不足している現状から、慎重な判断が求められます。

mRNAワクチン被害の十分な検証も行われないうまま、次なる自己増殖型mRNAワクチン（レプリコンワクチン）の接種は、国民の命と健康を守るというより、製薬メーカーや医療業界の利権に加担することに他なりません。

よって、世界での安全性も確認されていない自己増殖型mRNAワクチン（レプリコンワクチン）の中止と、国民へのmRNAワクチンの健康被害の周知と、mRNAワクチンによる健康被害救済の強化を強く求めます。